

さがみはら ぼらんていあ情報誌 季刊

わくわく



座談会 全49回ふりがえり一覧
インタビュー
歩く

2021春号

認定 特定非営利活動法人 相模原ボランティア協会

ネモフィラ

日向 尋

かなたまでつづく草原に
澄みきったブルーの点が広がる
きらきらの青い瞳がびっしりと広がる
瑠璃唐草・ネモフィラ

遠くカリフォルニアから
来てくれたこの小さな花は
春に必須の花となった
かつてひたち海浜公園の丘を
覆いつくしたのを見たとき
おと叫んでしまったのだ

今は近くの公園にも

来てくれんだよね

清々しい心 成功 可憐 あなたを許す

花言葉は多彩多様

近くに来てくれて

・・・ありがとう

ネモフィラ・・・



巻頭詩		1
もくじ		2
わくわく座談会の概要集(1)~(7)		3~9
ふくしワンポイント情報—地域福祉計画と社協—		10~11
ぼらんていあ活動グループ訪問 「福祉ボランティア 園」		12~13
わくわくシリーズもののタイトル一覧		14~15
人物シリーズ 50 小野 明雄さん		16~17
相模原の史跡—新戸長松寺		18
4コマ漫画「わくわくさん」		19



手話シリーズ 44		20~21
パズルにチャレンジ 前号の解答		22
詩		23
私が選んだハイキングコース ~町田駅発・美術館めぐり~		24~25
協会のPRページ		26
「わくわく」一時休刊にあたって		27
編集後記・奥付		28

わくわく座談会の概要集（１）

号（通巻） 表 題	座談の概要
2008 春号 通巻 1 号 <u>津久井地域で起 きていること</u>	新相模原市になったが、津久井、相模湖、藤野の各地域のボランティア活動にかかわる地域の諸課題について話し合い、共有した。広い地域のため、移動の困難さは想像を絶するものがあるという。（8人）
2008 夏号 通巻 2 号 <u>相模湖町のぼら んていあ活動は</u>	相模湖町のボランティア連絡会のメンバー 8 人、それぞれ様々なボランティア活動を行っている。各団体の現状と課題について話し合った。いずれも、メンバーの高齢化が問題になっており、若い人をどう巻き込むかは大きな課題である。
2008 秋号 通巻 3 号 <u>城山町のボラン ティア活動を語 る</u>	城山ボランティア連絡会の皆さん 6 人が集い、様々な障がいに対するボランティア活動や団体について意見交換を行った。城山保健福祉センターという場所があることが大きな力になっているとのことであった。
2009 冬号 通巻 4 号 <u>広くなった相模 原市、サボセンの 将来像を考える</u>	地区社協、自治会地区連、ボランティア団体、公民館の立場から、4 人の参加を得て、現在の活動内容を話し、さがみはら市民活動サポートセンターのあるべき姿を議論した。フロアからも活発な意見がでて、相互理解が進んだ。（NPO 法人さがみはら市民会議と共催）
2009 春号 通巻 5 号 <u>男たちが語る 「男ボラのこ と」</u>	市内の男性ボランティア団体の方 8 人に参集いただき、活動の内容、今後の課題などについて語っていただいた。有償ボランティアの是非が議論になった。ゆるやかな男ボラの交流会もいいのではないかと意見もあった。
2009 夏号 通巻 6 号 <u>視覚障がいとボ ランティア活動</u>	視覚障がい関連の 4 つのボランティア団体の参加で、各団体の活動内容を説明いただき、団体連携の現状、市内の視覚障がい者の状況、これからの活動のあり方について意見交換ができた。
2009 秋号 通巻 7 号 <u>障がい者地域作 業所の現実と夢</u>	相模原市障害者地域作業所等連絡協議会から、会長ほか役員 3 人にご参加いただき、作業所の活動内容、地域とのかかわりの現状をお話いただき、今後、特に地域との関係づくりを重視しながら、夢に近づいていきたいといった内容であった。

わくわく座談会の概要集（２）

号（通巻） 表 題	座談の概要
2010 冬号 通巻 8 号 <u>障がい者スポーツよもやま</u>	けやき体育館をベースにスポーツを楽しんでおられる方 3 人に参加いただき、障がいの種別と様々なスポーツの関係、グループ化の経緯、今後の発展のための条件などについて話し合った。
2010 春号 通巻 9 号 <u>配食ボランティアふれあうこと</u>	城山で配食ボランティアとして活動している「赤秋の会」の皆さん 5 人に参加いただいた。活動のきっかけ、利用者とのふれあい、安否確認の大切さなどが話された。若い後継者がいないのが悩みとのこと。
2010 夏号 通巻 10 号 <u>津久井から広がること</u>	津久井地区で活動しているボランティア 3 団体の方々にお集まりいただいた。点訳、人形劇、不用品から資金を生み出すなどの活動をしている。広い地域のための難しさ、工夫していることなど、話題が豊富であった。
2010 秋号 通巻 11 号 <u>藤野で頑張ってます</u>	藤野で活動している 3 つの団体に参加いただいた。高齢者の健康体操や歌、高齢者への手助け、録音ボランティアなどの皆さんであった。活動の計画と進め方の工夫、新市の中で埋没しないで、いかに「藤野らしさ」を残していくか考えている。
2011 冬号 通巻 12 号 <u>こころの病に寄りそって</u>	精神障がい者に寄りそう活動をやっている 3 つの団体・施設に集まっていた。活動の始まりと細やかな工夫、地域とのかかわり、活動メンバー後継者の確保など、様々なことが話された。
2011 春号 通巻 13 号 <u>子育てを応援する</u>	民生・児童委員、子育てサロン、こどもセンターなどで活動する子育てを支援する皆さんである。お母さんの悩み相談、ベビーマッサージなど多様な活動がある。なかなか外に出てくれないお母さんとの接触・声掛けなど、話し合われた。
2011 夏号 通巻 14 号 <u>相模原災害ボランティアネットワークが目指すもの</u>	ネットワークの会員の皆さん 4 人に集まっていた。会への参加を決めた経緯、会の活動内容についてお話しいただいた。被災した場所で現場の活動を行ったことがあり、それらの経験から、相模原市での災害時の避難所運営のことなど多様な話がでた。

わくわく座談会の概要集（3）

号（通巻） 表 題	座談の概要
2011 秋号 通巻 15 号 <u>相模原のシティ セールス・市民 の連携</u>	観光マイスター4人と市商業観光課長に参加いただいた。それぞれの方々がマイスターになった理由を伺い、育った地域へのかかわりの深さを共有。都市間競争の時代に、それぞれの地域の良さを大いに発揮、発信していただくことの重要性について認識を新たにした。
2012 冬号 通巻 16 号 <u>寄稿・大船渡体 験記</u>	東日本大震災の後、市社会福祉協議会が募集した災害復興支援ボランティアに参加した4人の皆さんの、参加しての感想を寄稿いただいた。それぞれ、災害の巨大さに打ちのめされながらも、人々が助け合うことの大切さをしっかりと実感できた。
2012 冬号 通巻 17 号 <u>インタビュー・ ハンディキャブ 号利用者に聞く</u>	主要な協会事業であるハンディキャブ号運行を利用されている2人の方にインタビューを試みた。単独では外出できなくなった時の状況、どういう場面でハンディキャブを利用されているのか、利用しての感想などを伺った。それぞれの生活の中でしっかりとお役に立っていることが実感できた。
2012 夏号 通巻 18 号 <u>地域包括支援セ ンターのいま</u>	市内3地区の包括支援センターから参加いただき、センターの役割、地域とのかかわり、これからの展開を考え、地区社協と協力しつつ、ボランティアをしていただける方々の組織化に取り組んでいる。 (現在は高齢者支援センターと呼称している。)
2012 秋号 通巻 19 号 <u>視覚障がい者と パソコン生活</u>	市の視力障害者協会パソコンクラブ・カルガモから、5人の方々に参加いただき、活動の状況について伺った。晴眼者のサポーターの協力を得ながら、パソコンの使い方を学習している。音声ソフトにより、キーボードにさえ慣れれば、情報入手や交換に利用できる。また、できなかった読み書きができる。
2013 冬号 通巻 20 号 <u>いるかバンクっ て何？</u>	市社協ボランティアセンターで運営している市民ボランティア登録制度「いるかバンク」で活動している4人からお話を伺った。始めた動機、主な活動内容、これからやってみたいことなど、多様なお考えが聞けた。
2013 春号 通巻 21 号 <u>国際交流ラウン ジを知ろう</u>	淵野辺駅近くにある「国際交流ラウンジ」の運営機構の関係者4人に参加いただいた。ラウンジはボランティアによって運営されており、一般スタッフと通訳スタッフがいる。日本語教室の団体があり、新たに日本に来られた方への教室を運営している。外部へのアピール活動としてフェスタの開催や参加など。

わくわく座談会の概要集（４）

号（通巻） 表 題	座談の概要
2013 夏号 通巻 22 号 <u>通学援助ボランティアのしごと</u>	市内 4 つの地域から 6 人の通学援助をやっている方々に参加いただいた。それぞれの団体の活動の中で行っている通学援助活動の細やかな状況を伺った。利用者についての家庭、学校、ボランティアなどの関係者間での情報の共有が大切だ。
2013 秋号 通巻 23 号 <u>中途失聴・難聴者と手話</u>	NPO 法人相模原市難聴者協会・土の会の皆さん 5 人に参加いただき、それぞれ難聴になった状況や現状をお話しいただいた。また、ボランティアの立場での参加者のお話しも聞いた。さらに、なぜ土の会が必要か、今どういう活動をしているか、今後のあり方などを聞いた。
2013 冬号 通巻 24 号 <u>精神障がい者と作業所</u>	市内外で精神障がい者が利用する作業所の運営にかかわっている方々 5 人にお集まり願った。就労継続支援 B 型として運営されており、様々な仕事を工夫しておられ、作業の安定性にも留意されている。地域に溶け込み、地域とのふれあいも多い。楽しみを加え、オンとオフをバランスさせている。
2014 春号 通巻 25 号 <u>大学と学生の地域福祉貢献</u>	< 調査特集 > 和泉短期大学、女子美術大学、相模女子大学、市内の 3 大学にアンケート形式で調査への協力をお願いした。学生サークル、大学の地域貢献活動、大学の専門性を生かした活動など、多様な活動ぶりが明らかになった。
2014 夏号 通巻 26 号 <u>田名地区のボランティア活動は今</u>	田名ボランティアセンターが設置されて 3 年、かかわっておられる 6 人の皆さんに集まっていたいただいた。地域から出てくる様々な相談を受けながら、活動に結びつけている。これからの新たな担い手をふやすように、サポーターも楽しみながらやっていけるようにしていきたい。
2014 秋号 通巻 27 号 <u>夢に向かって／津久井高福祉科</u>	県立高校で福祉科がある津久井高にお邪魔し、2 年生 3 人、先生 2 人にお話を聞いた。福祉科に入った動機もそれぞれあって、意欲的な生徒さん達である。高校生活の中で、ボランティアや実習などを通して、スキルを向上させ、資格も取得するなど自分の夢に向かって進んでいる。
2014 冬号 通巻 28 号 今、さがみはらの子育て支援は	みらい子育てネットさがみはら連絡協議会の理事の皆さん 4 人に集まっていたいただいた。それぞれの地域で、個別の活動団体での活動をされている。さらに、市全体の子育て支援のことも考えながら、今後活躍できるメンバーも受け入れ、育てていきたいと思っている。

わくわく座談会の概要集（５）

号（通巻） 表 題	座談の概要
2015 春号 通巻 29 号 <u>高齢者支援センターが地域ではたすこと</u>	市内3か所の支援センターの方々に集まっていたいただき、支援センターで働くようになったきっかけ、運営している法人や地域のこと、地域市民との関わりなどを伺った。今後導入されるコミュニティソーシャルワーカーへの期待、地域のボランティアへの期待などが話された。
2015 夏号 通巻 30 号 <u>精神障がい者が地域で生きること</u>	市内の障害者地域活動支援センター利用者の方々4人に集まっていたいただき、それぞれの障がいの状態とセンター利用の状況について話していただいた。また、社会資源をどう利用できるか、市民の理解がこういうふうに進むといいのだがといった、様々なお話が聞けた。
2015 秋号 通巻 31 号 <u>ボランティアセンターがめざすもの</u>	相模原市社会福祉協議会が設置している3区の各ボランティアセンターの担当者及び関係者4人に集まっていたいただき、各センターがどのような計画を進めているのか、ボランティアセンター登録者（いるかバンク）の活動状況、また、市民との関係作りへの抱負なども話していただいた。
2016 冬号 通巻 32 号 <u>新たな出発 NPO れんきょう</u>	NPO 法人化をされた相模原市障害児者福祉団体連絡協議会（れんきょう）の役員5人の方々をお招きし、それぞれの団体の特徴、法人化に伴う事業の発展状況、今後の進みたい方向などについて話していただいた。
2016 春号 通巻 33 号 <u>どうする人材バンク</u>	市社会福祉協議会の「いるかバンク」、さがみはら市民活動サポートセンターの「たすかるバンク」はともに人材バンクであり、それぞれの運営者2人にお話しいただき、歴史、目的、現在の利用状況について伺った。また、バンクは活動分野、利用対象者が異なるが、今後の連携の可能性も議論された。
2016 夏号 通巻 34 号 <u>若手経営者の社会貢献への挑戦</u>	相模原青年会議所の役員3人の方々にお話しいただいた。若手の皆さんが社会貢献に取り組まれており、その考え方は多様である。特に、本業の中での社会貢献について意識されていることが印象的である。
2016 秋号 通巻 35 号 <u>ボランティアグループの課題と展望</u>	市内で以前から活動を展開している3つの団体の方々にお出でいただき、お話を伺った。それぞれ団体の歴史や活動内容の紹介があり、昨今の社会の変化の中で、ニーズも変化してきた面もあるが、基本部分はそうそう変わるものではない。それでもボランティア団体の役割については、これからの変化が必要な面があるものと思われる。

わくわく座談会の概要集（6）

号（通巻） 表 題	座談の概要
2017 冬号 通巻 36 号 <u>ほかほかふれあ いフェスタ・展 望</u>	秋の交流事業であるほかふれフェスタの実行委員会の役員 4 人にお集まりいただき、フェスタの目的、歴史、企画内容をお聞きした。また、障がい者の置かれた状況も大きく変化したことで、現状では企画する側の悩みもあることから、これからのありようについても様々な意見が出た。
2017 春号 通巻 37 号 <u>傾聴ボランティ アがはたす役割</u>	相模原ボランティア協会の傾聴活動を担っているメンバー 3 人と南ボランティアセンターのご担当のお話を伺った。各人の傾聴との出会い、活動で思うこと、感動したこと、認知症の方とのふれあい方など、盛りだくさんの内容であった。
2017 夏号 通巻 38 号 <u>南区での活動あ れこれとラウン ジ活動</u>	南区地域福祉交流ラウンジを拠点として利用している 5 団体とラウンジ運営スタッフに参加いただき、南区での活動の内容、工夫していること、悩み、活動の対象者さんとの交流の大切さなど様々なご意見をいただいた。また、ラウンジとしては、地域に入り込んでいきたいといった話があった。
2017 秋号 通巻 39 号 <u>にぎわい処…こ こから始まる地 域の輪</u>	光が丘地区で火曜・木曜、週 2 回開催されている大人食堂の役員 4 人の話を伺った。何故開催するようになったか、やっていて楽しいこと、メニューへの思いなど、細やかな工夫が随所に見られた。地域の様々な団体や機関との連携、野菜を作ってもってきてくれる人など、幅広い交流が伺えた。
2018 冬号 通巻 40 号 <u>わくわく 10 年 今感じること</u>	創刊 10 周年を迎えた本誌の編集委員 4 人に話を聞いた。発刊の際の思い、それぞれの担当記事での裏話や工夫していること、印刷製本すべて手作りのための苦労などを話していただいた。ここから、A 5 版から B 5 版になった。
2018 春号 通 41 号 <u>ボランティア体 験が残したもの</u>	以前に福祉ボランティア活動に参加し、今は福祉の現場で働いている 4 人の方々に集まっていたいただいた。昔のボランティア活動がどうであったのか、その活動が及ぼしたその後の進路への影響、今、若い世代の人々が自由にボランティア活動に参加することに期待するということなどをお話しいただいた。
2018 夏号 通巻 42 号 <u>C S W がはたす 役割と期待</u>	市社会福祉協議会が各地区に配置したコミュニティソーシャルワーカー（C S W）4 人に集まっていたいただいた。各地区の特徴、C S W の役割、地域で変化してきたことが話された。具体的に C S W の役割が発揮された事例の紹介もあり、地域の中での多くの社会資源を結びつける効果などが顕在化してきた。

わくわく座談会の概要集（7）

号（通巻） 表題	座談の概要
2018 秋号 通巻 43 号 <u>自閉症支援 20 年 これからを考える</u>	設立 20 周年を迎えた社会福祉法人風の谷の職員の皆さん 4 人に、自閉症支援の 20 年について、自閉症、発達障がいの方への支援を対象とした施設の生い立ちと歴史が話された。やりがいのある仕事だが、難しいものと思われがちで、次の世代に引き継いでいくことがこれからの課題である。
2019 冬号 通巻 44 号 <u>運転ボランティアで思うこと</u>	単独で外出することが困難な方を、車両による移送サービスによって支援する相模原ボランティア協会の福祉有償運送事業に携わる 4 人の会員の方々に登場願った。活動の中での利用者とのふれあいなど貴重な体験から得られたこと、素晴らしさを語っていただいた。
2019 春号 通巻 45 号 <u>放課後デイサービスの今・未来</u>	市内で放課後デイサービスを展開されている方々 4 人の話を伺った。それぞれ異なったバックグラウンドを持つ皆さんがこの仕事に入って来られた経緯も施設の名称の由来も興味深いものがある。今後は多様な障がいを抱えた利用者を受け入れていくことで特徴を出していきたいとのこと。
2019 夏号 通巻 46 号 <u>森林ボランティア・その醍醐味</u>	森林ボランティア団体である NPO 法人自遊クラブの皆さん 5 人のお話を伺った。市民の森を作ることが大きなテーマになっている。それぞれの持ち味を生かした活動がユニークだ。今後、後継者を育てたいが、高齢者が増えていっても、継続して活動してくれるところまではなかなかいかないのが課題だ。
2019 秋号 通巻 47 号 <u>さがみハート展 にかける思い</u>	精神障がい者の詩に市民画家がイメージ絵画をつけて発表する活動をしている実行委員会の皆さん 3 人に伺った。市内でもメイン会場の他、各地で展示会を開催し、絵画つきの立派な詩集も発行されている。展示を鑑賞された方は大層感動していたくことが多い。今後は資金面での工夫が必要だ。
2020 冬号 通巻 48 号 <u>手話ボランティアがはたす役割</u>	市内で手話ボランティアとして活躍されている 3 つの団体の方々に参加いただいた。手話の世界に入ったきっかけ、各団体の個性的な活動内容を話していただいた。ろう者との交流を大切にしながら、手話技術の向上にも取り組んでおられる姿勢が印象的である。
2020 秋号 通巻 49 号 <u>主任児童委員が はたす役割</u>	市内 3 つの地区で主任児童委員をしておられる方々のお話を伺った。知っているようで知らない主任児童委員だが、地区内の課題を抱えた 18 歳未満の子どもさんを見守る活動が主だ。何でも相談できる本当の地域のおばさんになることがいいのだかと思いつつ、地域で工夫しながら活動されている。

ふくしワンポイント情報

今回も複数回に分けて、「ぼらんていあ通信」に掲載されていた「社協事業紹介」記事を転載させていただきます。よろしくお願いします。

地域福祉計画と社協

桜の花も散り、若葉が楽しい季節になってきました。ボランティア協会の皆さま、お変わりありませんでしょうか？まもなく元号が変わります。昭和生まれの私も、三つの元号を経験することになりました。浮かれることなく地道に反省し、新しい時代を希望を持って迎えたいと思います。

さて、「みんなで支え合い 地域力が育む 人にやさしいまち さがみはら」のスローガンのもと、市社協の活動や歴史などを紹介しておりますが、今号では本会の活動指針を示

す「市社会福祉協議会 地域福祉活動計画」について触れたいと思います。

相模原市地域福祉計画とは？

社会福祉法第一〇七条により相模原市は「地域福祉計画」を定め、本市における地域福祉の推進方策を示しています。市には「高齢者保健福祉計画」、「障害者福祉計画」、「子ども・子育て支援事業計画」、「保健医療計画」といった保健福祉に係る分野別計画があります。が、「地域福祉計画」はこれらの分野別計画を地域という視点で捉えなおし、各部門に横断的にかわる住民の福祉活動を推進するための仕組づくり等を定めた行政計画です。

現在の計画は第三期（計画期間平成二十七年～三十一年度）となりますが、第一期計画は平成十七年度から始まっています。福祉コミュニ

ティ形成事業もこの計画により同年スタートしたものです。

相模原市社協地域福祉活動計画とは？

一方、社会福祉協議会はその性格を①地域における住民組織と公私の社会福祉事業関係者により構成され、②住民主体の理念に基づき、地域の福祉課題の解決に取り組み、誰もが安心して暮らすことのできる地域福祉の実現を目指し、③住民の福祉活動の組織化、社会福祉を目的とする事業の連携調整及び事業の企画・実施などを行う、④市区町村、都道府県・指定都市、全国を結ぶ公共性と自主性を有する民間組織である。と「新・社会福祉協議会基本要項」に自ら定めています。このことを具現化するため、市社協では本会の会員や社会福祉関係団体、地域福祉実践者等の意見をもとに「地域福祉活動計

画」を定め、日々の事業展開に取り組んでいます。

本会の「地域福祉活動計画」の策定の歴史は早く、昭和五十七年一月には「相模原市社会福祉協議会の取り組みべき事業について（第一次計画）」がスタートしており、現在は「第八次相模原市社協地域福祉活動計画 みんないいひとネットワークプラン」（計画期間平成二十七年～三十一年度）の最終年となっています。

両計画の関係性とは？

両計画に共通するテーマは「地域福祉」であり、地域福祉の主役を「住民主体の福祉活動」としている点に注目する必要があります。

ここである住民主体の福祉活動には、地区社協、自治会、民生委員児童委員等の地縁組織が取り組む活動だけではなく、地域に活動の拠点を置いている各分野の社会福祉法人や

様々な福祉事業者、ボランティアやNPOとして福祉活動を進める人々、また、高齢者や障がいのある方、子育ての当事者など多くの人々が関係している福祉的取り組みがすべて含まれています。もちろん、皆様ボランティア協会の取り組みもこの枠組みに入り、協会員お一人お一人の活動が重要な一つとしてとらえられています。

これらの活動が発展していくために、両計画の整合性が確保されていることは当然のことです。住民主体の福祉活動、市社協、行政の役割分担と協力体制、支援の在り方等について、両計画は具体的指針、取り組みべき事業等を示しているものです。

新たな計画策定に向けて!!

孤立・孤独、生活困窮、虐待など今日的な福祉課題はますます深化し、見えづらくなっています。両計画の

実施期間は本年度が最終年となり、現在、新たな計画（次期計画）の策定が進んでいます。福祉課題の解決は生活保障の問題ともリンクするため、一義的には行政責任が問われますが、それだけでは「誰もが安心して暮らせるまちづくり」は出来ません。つながりのあるあたたかな地域づくりのために、新しい元号のもとで皆様と一体となって努力したいと思っています。

市社協 田所

この記事の内容は、平成三十一年四月発行のぼらんていあ通信から転載したものです。

ボランティア活動グループ訪問記



「福祉ボランティア 風」の活動 ダウン症児のドーマン法体操

十月二日（金）午後、磯部勝坂遺跡公園のすぐ近くにある小松さんのお宅におじゃました。少し道に迷って予定より五分ほど遅れてしまいもう始まっていた。早速その様子を見せていただいた。小松さんの小学五年生になる息子さん・祥太朗くんが行っている体操を、「福祉



リハビリで頑張る祥太朗くん。
お母さん(右)とボランティアさん
と一回につき5分間の体操
をします

ボランティア 風」のメンバー三人と祥太朗くんのお母さんと歌をうたいながらそのリズムにあわせて体を動かしていた。

まもなく休憩になり挨拶をすませて少しお話しを伺った。この体操はドーマン法体操というもので、脳障害に良い効果を得られるのだそう。大人でも横になれるほどの大きさの高い脚付きのベツドの上に祥太朗くんが腹ばいになり、お母さんが頭を両手でささえ左右に交互に向かせます。そしてボランティアさんが手首と足首を持って祥太朗くんの好きな歌をみんなで歌いながらトカゲの動きのように体操します。五分間体操をしたあとに一分間マスクをつけます。このマスクをすることで、呼吸を深くして二酸化炭素がたくさん脳に届くようになり、その分酸素を取り入れようと血流が増えて右脳の働きが良くなるのだそう。そのあと七、八分休憩です。ち



祥ちゃんお気に入りの
ロクちゃんはボランティア
さんが連れてきたので
ボランティア犬かな～

ようどこの日はボランティアさんの愛犬「ロクちゃん」も交えてみんなで楽しく雑談。

この順序で六回繰り返し返して行うそう。四回が終わったところで少し長い休憩。お母さんの淹れてくださったおいしいお茶を、みなさんと一緒にごちそうになった。そしてまた二回体操をして終了。一時半から三時半まで二時間、これを毎日行うのだそう。

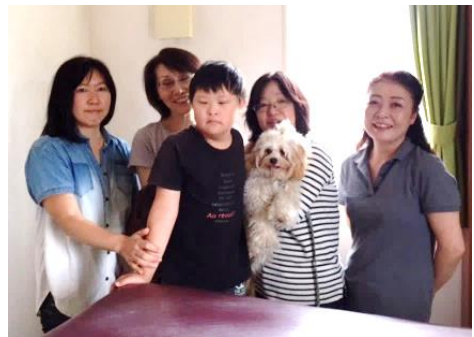
二歳の頃からこの体操を続けてきた事で骨も丈夫になり歩行もしっかりして来て、最近は百メートル走も完走出来

たのだそう。熱い、冷たい、痛いなどの感覚もだんだんと感じられるようになって来たそう。

お茶休憩のあと、もう二回体操です。祥太朗くんは午前小学校で午後体操という毎日、土、日はお父さんや中学二年のお兄さんにも手伝ってもらっているそう。長時間の体操をいやがらずに出来ていることに感心した。そしてお母さんが沢山の歌を楽しそうに歌っていらっしやる事にも感心です。「みなさんに関わってもらって幸せです」とおっしゃった。ボランティアのみなさんと祥太朗くんの楽しそうな会話も心に残った。

後日「福祉ボランティア 風」の代表 藤村（ふじむら）眞理子（まりこ）さんに電話でお話をうかがった。

活動を始めたのは、平成十五年八月です。六月から準備を始めました。会員は現在十二名で最初から活動が続けている人、二年、四年という人もいます。



前列右から祥太郎君、お母さん。後列ボランティアの柴田さん、黒瀬さん、ロク、井上さん。

小松さんとの関わりは、ボランティアセンターからお話があり、最初から関わっていて十年になります。

この活動のほかに家事手伝い、買物、家の片付け、通院介助、通学介助、幼児の通園介助、見守り等もあります。現在は話し相手が主になります。

（小林・植野）



福祉ボランティア 風

代表 藤村眞理子

相模原市南区磯部1800-1

電話 046-255-4684

このグループ訪問の記事は、「平成二十七年十月号の『ぼらんていあ通信』」に掲載されたものを転載したものです。内容について一部古いものがあるかもしれませんが、記事作成当時の内容ですので、ご容赦ください。

わくわく シリーズもののタイトル一覧(1)

号	発行年	季節	人物シリーズ 登場者	ハイキング記事	さがみの味・相模原の史跡
1	2008	春	西本 敬	城山・おらあ三太だ！ 三太物語の町・津久井・石老山・藤野五感の里ほか	
2	2008	夏	白濱豊子	木もれびの森・相模川 磯部など・市立麻溝公園 県立相模原公園	さがみ長寿いも・手作り酒まんじゅう
3	2008	秋	磯部節子	淵野辺からモナの丘・小松地区	鶏肉とごぼうのかてご飯・ シャキシャキサラダ中華あ じ・にんじん畑からこんにち は
4	2009	冬	関口良三	八王寺七福神・北公園	さがみ長寿いも、長寿やま いも・すいとん・よもぎだんご
5	2009	春	高橋ツギ	甲州古道・松田山ハーブガーデン	里芋の肉巻きフライ・芋よう かん
6	2009	夏	杉崎正子	相模川自然の村	すいとん・なすの味噌炒め
7	2009	秋	桑野千佐子	北公園から相模川自然の村へ・高田橋～塩田	大豆と野菜入りおこわ・ピラ フ風五目おこわ
8	2010	冬	友田幸男	小松から城山湖へ・境川を行く パート1	じゃがチーズ・いか人参
9	2010	春	清水紳一郎	小仏峠から景信山・境川を行く パート2	たくあんのバターライスと葉 めしごはんの一口おにぎり・ 即席しば漬け
10	2010	夏	山本和子	南富士 越前岳・境川を行く パート3	
11	2010	秋	中島博幸	入笠山・境川を行く パート4	さがみ菜チャーハン・やま いもクッキー
12	2011	冬	山口尚美	藤野芸術の道・瀬谷八福神めぐり	ひじきサラダ・大根のフラン
13	2011	春	石井吉彦	山梨県 日向山・境川を行く パート5(1)	里芋カレー風味 コンコン ロール揚げ・大根のピザ風 味
14	2011	夏	戸塚英明	南足柄市 矢倉岳・境川を行く パート5(2)	さがみーとぼーる・大根の紅 白梅花スープ
15	2011	秋	鈴木節子	弘法山・境川を行く パート6	ポパイ春巻き・大根とマグロ のサラダ
16	2012	冬	江頭善文	長池公園・境川を行く パート7	かぼちゃとさつま芋のサラ ダ・野菜のコロッケ
17	2012	春	高橋 功	相武台下から海老名へ・境川を行く パート8	竹の子ご飯・らっきょうとれん こんのサラダ
18	2012	夏	菅原茂浩	滝山城址公園・境川を行く パート9	酒まんじゅう・なすのみそ炒 め
19	2012	秋	鶴巻 幹	藤野 生藤山・境川を行く パート10	れんこんとらっきょうサラダ・ 大根ステーキ
20	2013	冬	田嶋いずみ	千葉県 伊予ヶ岳・境川を行く 総集編	すいとん(米の粉入り)・大豆 と野菜入りおこわ
21	2013	春	左々木ハルコ	エビ沢の滝・光と緑の美術館	きんぴらごぼう・伊達巻(だ てまき)
22	2013	夏	加藤 修	小山田神社	牛肉の八幡巻き・パンケー キ
23	2013	秋	八木幹夫	湯河原 幕山・座間ひまわりまつり	里芋の肉巻きフライ・芋よう かん
24	2014	冬	宗田真理子	武蔵国分寺跡・相模国分寺付近	伊達巻・牛肉の八幡巻き
25	2014	春	中山正和	二宮 吾妻山・厚木ぼうさいの丘公園	すし飯・絵巻すし

わくわく シリーズもののタイトル一覧(2)

号	発行年	季節	人物シリーズ 登場者	ハイキング記事	さがみの味・相模原の史跡
26	2014	夏	笹野賢司	震生湖・古淵～相模大野、相模緑道緑地	バウンドケーキ・上新粉のむしケーキにんじん入り
27	2014	秋	瀧川美和子	あいかわ公園・相模大野～つきも野、相模緑道緑地	じゃが芋もち・じゃが芋だんご
28	2015	冬	篠田昭二	相模川自然の村から十兵衛山・寒川神社	鶏肉とごぼうのかてご飯
29	2015	春	小林一郎	都立長沼公園・長津田駅(駅ぶらり)	橋本宿
30	2015	夏	千谷史子	陽光台から田名向原遺跡へ・十日市場駅(駅ぶらり)	上矢部の板碑
31	2015	秋	服部裕明	青根コスモス園・道保川公園(駅ぶらり)	龍像寺
32	2016	冬	原 裕子	勝坂遺跡、中村家・市が尾(駅ぶらり)	淵辺義博居館跡
33	2016	春	谷内孝行	相模三川公園・青葉台(駅ぶらり)	相原八幡・正泉寺・華蔵院
34	2016	夏	石井トシ子	大和 泉の森・多摩境(駅ぶらり)	呼ばわり山
35	2016	秋	佐藤利章	横浜水道路(田名側)・多摩境～南大沢(駅ぶらり)	谷口青柳寺
36	2017	冬	渡邊 亮	水道路(東林間側)・南大沢～京王堀之内(駅ぶらり)	田名八幡宮
37	2017	春	藤井恵美子	木もれびの森・古淵～大沼(駅ぶらり)	上溝本町芭蕉句碑
38	2017	夏	松岡康彦	藤野やまなみ温泉周辺・JAXA, 市立博物館	古淵の大日堂
39	2017	秋	渋谷久美	愛川 三増合戦場・山下公園～桜木町(駅ぶらり)	当麻の天満宮
40	2018	冬	坂本桃子	茅ヶ崎里山公園	大沼神社・大沼新田
41	2018	春	藤井 智	城山湖を周る	下溝さいかち原
42	2018	夏	荒木乳根子	道保川	大島長徳寺
43	2018	秋	富永ナル子	2020東京オリンピック自転車競技コース	勝坂の有鹿谷
44	2019	冬	吉留 勉	鎌倉古道 七国峠を歩く	神澤不動尊
45	2019	春	中臺 博	照手姫・ロマン探訪の小路を歩く	原当麻観心寺
46	2019	夏	大谷聡穂	新緑の西沢溪谷を歩く	大矢平次左衛門金親公の墓
47	2019	秋	鈴木純恵	2つの公園を歩きたおす(麻溝・相模原公園)	相模野基線北端点
48	2020	冬	杉本榮治	淵野辺駅から公園とJAXA	磯部頭首工
49	2020	秋	磯部伸之	橋本駅から田端環状積石遺構へ	惣吉稻荷神社
50	2021	春	小野明雄	町田駅発・美術館めぐり	新戸長松寺



今回は
相模原ボランティア協会
副会長

小野 明雄さんを
ご紹介します。

今回は手違いがあつて緊急事態宣言下連絡ミスで誰も取材に動いていず、小野さんには対面取材ではなく、文書取材をお願いしました。

小野さんは、ボランティア協会の理事のほか、民生・児童委員、地区老人会の役員をやっています。

活動は

入会は「ハンディキャブ貸出」の利用がきっかけでした。入会後の主な活動は「いるかバンク」の送迎でした。

今は事務局のことが活動の中心になっていますが、ハンディキャブの運行に努力したいと思っています。

ご出身は

横浜で生まれ、小学校2年生の時に相模原に来ました。亡くなった宮川さんは隣の出身で同じ景色を見て育ったことの思い出話をしたことがあります。皆さん忘れないという「横浜市歌」、今でも歌えます。

市制施行前の相模原の住人です。ただ、30年近く相模原を離れており、ボラ協の誕生も知りませんでした。

仕事は主に児童養護施設で二宮、茅ヶ崎の施設に住み込みで働きました。茅ヶ崎の施設は虚弱児施設で医療面でのケアが必要な子どもたちを対象にしていました。現在は児童養護施設に統合されました。新しい子が入所する度にその子の課題を勉強しました。

ご家族は

相棒と2人暮らしです。相模原に戻ってきたのは、両親の介護のためで、現在はその時の両親の年齢に近づいています。子どもは二人、広島と茅ヶ崎にいて、それぞれ子ども二人ずつがいて親子で生活しております。私にとっては孫四人がいることになりました。

ご趣味は

(二〇二二年四月)

年からテレビ観戦ですが、コロナで歓声がなく、電車や救急車の音が気になります。

大切にしていることは

好きな言葉は「犬も歩けば棒に当たる」です。歩けば何か面白いことに出会えることを楽しみにしています。動けば課題にあたるのは当然、災難にも幸運にも丁寧に対処したいと思っています。

これからの自身は

見通しを付けておらず、少し焦るところがありますが、まず「健康第一」と思っています。

~~~~~

いつもニコニコ笑顔が印象的な小野さん、これからも健康第一で笑顔で回りの人々を明るくしていただければと思います。これからも益々元気で輝いてください。

取材・小倉義男

### 最近読んだ本は

趣味と言えるものではありませんが、好きなのは「散策」です。これと決めているわけではありませんが、川の流れ、用水路の流れに沿って歩き、歴史をたどる散策に出かけます。相模原市磯部で取水された用水が茅ヶ崎市室田まで運ばれている（左岸用水路）ことを知った時から、いろんなところを尋ね歩いています。子どもころ岐阜の田舎で遊んだ川が大きな用水路だったことを、最近になって知りました。相模原には「畑地かんがい用水路」という大規模な用水路が作られ、今は緑道として保存されています。その遺構を探すのも楽しみです。

このところ本を読んでいません。

新聞ぐらい読んだらとよく言われます。テレビはアクションものが好きですが、反対されて消すことが多いです。あとはスポーツ観戦です。横浜スタジアムのベ이스ターズ戦は昨



## 相模原の史跡 新戸長松寺

このページでは相模原の史跡を紹介します。

JR相模線相武台下駅を降りて、東北方向に進み、左側にあるのが長松寺である。住宅地の中にどっしりと構えてある。山門に大きく万年山とある。足利氏満が建立した時は臨済宗であり、建長寺宝珠庵の末寺であったが、その後、中興の際に、津久井の根小屋功雲寺末として、

曹洞宗に改宗したという。

氏満が寄進した際の「寄進状」は長くはつきりしなかったが、1964年の「相模原市史」のための調査で発見されたという。その内容は以下の通りである。「建長寺宝珠庵末寺長松寺に寄進する。相模国座間郷の内の田畠大の事、右は当寺領としてものごとくに寄進する旨を沙汰におよぶ 応永三年十二月十七日 佐兵衛督源朝臣（花押）」

氏満は1367年に父基氏の死去をうけて9歳で鎌倉公方となり、31年間にわたり鎌倉

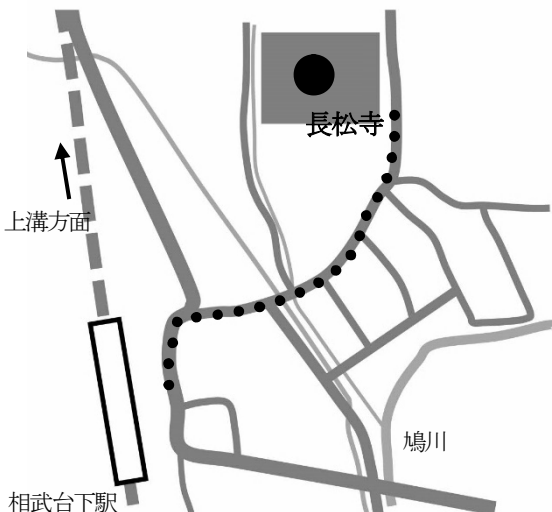


公方を務めたが、これは歴代公方では最長という。その間、関東10か国、陸奥、出羽の2国を統治していた。しかし、その間は合戦に次ぐ合戦で多忙を極めたのである。

長松寺を寄進した応永3年（1396年）には、下総の古河、さらには陸奥の白河にまで進んだ。

この寄進状は相模原市域に現存する最古の古文書であり、郷土の歴史を知る上で極めて貴重なものである。文書の一部には後筆と破損も見られる

が、表装され軸仕立てとされている。料紙の大きさは縦39、4cm、横58、2cmである。（相模原市指定有形文化財・古文書解説より）



観光協会による案内板

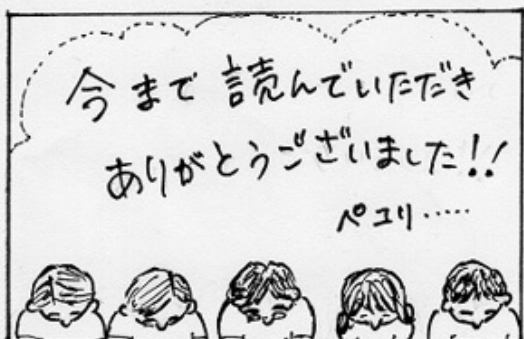
※座間美都治著 相模原の史跡及び相模原市ホームページを参考にしました。

# わくわくさん

作 髯野 克己

絵 鹿野 徹子

## これまでありがとう



## 高齢者・障がい者の相談は

### 介護保険に関する相談窓口

042-769-8321

#### 介護保険課

給付・保険料 042-769-8321

認定 042-769-8342

緑高齢・障害者相談課 042-775-8812

中央高齢・障害者相談課

042-769-8349

南高齢・障害者相談課 042-701-7704

城山保健福祉課 042-783-8136

津久井保健福祉課 042-780-1408

相模湖保健福祉課 042-684-3215

藤野保健福祉課 042-687-5511

※2021年4月から各区の高齢者・障害者の相談が、高齢・障害者相談課に一本化されております。

### 障がい者の相談窓口

緑高齢・障害者相談課 042-775-8810

中央高齢・障害者相談課

042-769-9266

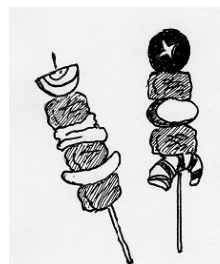
南高齢・障害者相談課 042-701-7722

城山保健福祉課 042-783-8136

津久井保健福祉課 042-780-1412

相模湖保健福祉課 042-684-3216

藤野保健福祉課 042-687-5511





### 「経済」

両手の親指と人差し指で輪を作り、他の指は開く。右手を上、左手を下にして、交互に水平に円を描く。



不景気なので、

(経済+下降)

生活が

(食べる+経済)

大変です。

←

今回も、手話の基本的な会話を覚えていきましょう。

基本的な単語を覚えることで、簡単な会話を楽しむことができます。

### 「経済」

先の「経済」と同じ手話を胸元でする。「食べる」+「経済」で「生活」を



### 「食べる」

左手をお皿に、右手を箸に見立て、箸を使うように右手を少しひねって、上に上げる。



### 「下降」

右手をカギ型にあり、右肩の上からお腹に向けて一気に下げる。「経済」+「下降」で「不景気」



### 「今」

両手のひらを下に向け、上下に細かく2、3回動かす。



今はコロナで大変ですよ。一番役に立ちそうな手話を選びました。

次は、条件の良い仕事を探しています。

←

### 「大変、苦しい」

右手の指先を軽くつかむように曲げ、胸にグルッと円を描く。苦しいという表情で。



### 「仕事、働く」

手のひらを上に向けた両手を中央に向けて2, 3回転かす。書類を整理する感じで。



### 「よいほう」

両手のひらを上にして、右手は下に下げ、左手は上に上げる。



### 「条件」

両手のこぶし同士を胸の中央で合わせ、指をバツと開きながら下に下げる。



続いて、  
仕事関係の短文で  
す。



### 「～中」

左手の4指と親指を平行に出し、その中央に右手を垂直に当てる。「中」の字を表す。右手は人差し指でもよい。



### 「探す」

右手の親指と人差し指で輪を作り、手のひらを相手にに向けた状態で目の前でクルクル回す。



### 「行く」

自分に向けた人差し指を振り下ろすようにして前方に向ける。



### 「面接」

両手のこぶしを前後に向かい合わせ、近づける。



### 「来週」

右手の親指、人差し指、中指を伸ばして、数詞の「7」を作り、右胸のあたりから山なりに弧を描きながら前方に出す。



# パズルにチャレンジ 解答編

前回の問題は日本の動物園の名前でした。  
たくさんの動物園がありますよ！

|    |   |    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|---|----|----|----|----|----|----|----|----|
| ①あ | さ | ②ひ | や  | ③ま |    | ④ず | ー  | ⑤ら | し  |
| ど  |   | が  |    | ⑥ち | ば  | し  |    | ん  |    |
| べ  |   | し  |    | だ  |    | や  |    | ど  |    |
| ん  |   | や  |    |    |    | ぼ  |    | ⑦の | な  |
| ち  |   | ⑧ま | ⑨る | や  | ⑩ま |    |    | お  |    |
| や  |   |    | き  |    | ざ  |    | ⑪ん | か  | ざ  |
|    |   |    |    |    | ー  |    | の  |    |    |
| ⑫う | さ | ぎ  | の  | さ  |    | ⑬ど | う  | ぶ  | ⑭つ |
| え  |   |    |    |    | ⑮し |    | じ  |    | き  |
| ⑯の | げ | や  | ま  |    | ⑰が | し  |    |    | や  |

## ヨコのかぎ

- ① 北海道の真ん中の有名な動物園
- ④ 横浜市旭区の〇〇〇〇〇ア
- ⑥ 〇〇〇動物園。若葉区にありレッサーパンダが有名
- ⑦ 海〇〇かみち海浜公園は福岡県
- ⑧ 札幌の有名動物園
- ⑪ き〇〇〇んリス村おもしろいよ！
- ⑫ 石川県加賀市、月〇〇〇〇〇と。
- ⑬ ズバリ！ 京都市〇〇〇〇園
- ⑯ 日ノ出町駅から近いよ。〇〇〇〇動物園
- ⑰ 井の〇〇ら自然文化園

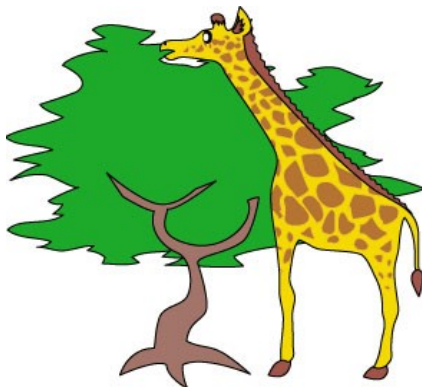
## タテのかぎ

- ① 〇〇〇〇〇〇ーワールド。パンダが超有名な動物園。
- ② 名古屋市で有名な動物園
- ③ 〇〇〇リス園。小粒でも大人気！
- ④ い〇〇〇〇テン動物公園
- ⑤ 淡路島ファームパークイング……。
- ⑨ 伊豆アニマ〇〇ングダム
- ⑩ ひつじなど牧場が楽しい。〇〇〇牧場
- ⑪ 大阪のて〇〇〇〇動物園
- ⑫ シャンシャンがかわいい！
- ⑭ 大阪府池田市のさ〇〇〇ま動物園
- ⑮ 〇〇農業公園ブルーメの丘

濁音、半濁音はどちらでも、なしでもありでも読めるということで。

□の3文字を集めましょう。答えは

ア タ ガ ワ バ ナ ナ ワ ニ 園



## 歩み

坂本隆夫

晩秋の 陽(ひ)を 浴びながら  
一歩 一歩 ゆつくりと 歩く  
空は まぶしく 雲 一つ ない  
広い グランドで 子らは  
サッカー かけっこ等に 興じている  
私も 走りたい  
しかし 今は 歩みは 遅い  
あせるな あせるな 時を 待て  
一歩の 積み重ねに  
期待を 持とう  
来年には 光 輝く 時が 来る  
そう 思つて 生きていこう  
ハッピー ニュー イアーーーー



このコーナーでは障がい者の皆さんの作品を紹介しています。



## 私が選んだハイキングコース ～町田駅発・美術館めぐり～

町田は小田急を利用したり、買い物をしたり、食事をしたりと利用できることが多く、全体に狭い中にひしめき合っていて、使い勝手の良い街です。その町田に歴史美術館ができたとの報道に接し、歴史好きの私としては、行かなきゃと歩いてみました。

① J R 町田駅の横浜寄りの改札口を利用して駅を出ます。駅ビルはミーナ町田になります。そこから北東方向（町田街道方面）に向かう道を歩いて、芹が谷公園に向かって歩きはじめます。

② 途中で左側に「町田市民文学館ことばらんど」があります。故遠藤周作氏の遺品を収蔵しており、資料閲覧室、印刷コーナー、販売コーナー、喫茶けやき、展示室などからなり、市民の身近な文学館となっています。

③ まっすぐに、とにかくまっすぐに、のんびり歩いても駅から15分ほどで芹が谷公園の入り口に到着します。公園入口から入るとすぐ左側に大きな建物、版画美術館があります。ここでは、市民グループの作品展示会が行われており、常設展、企画展が行われています。訪問した時は、「西洋の木版画・500年の物語」が企画展として催されていました。美術館には小さなレストランもあって、ランチをいただきました。

④ 美術館を見終わったら、公園の中の道を北方向に歩きます。公園は大木がたくさんあり、面白い噴水や小川のせせらぎもあって、楽しく歩くことができます。

⑤ 小田急線の線路が近くなると、公園もおしまいです。左に折れて、公園を後にします。ここまでで、1時間45分（歩数にして3800歩）が経っていました。美術館で鑑賞し、ランチもいただきましたからね。

⑥ 公園を出て、町田街道を北に向かい、小田急線を渡り、すぐに町田シバヒロです。ここは、町田市庁舎の跡です。芝生広場では子供たちがサッカーの練習していました。

⑦ シバヒロが終わったところの角で左に曲がって少し行くと、お目当ての「泰巖歴史美術館」が左側にあります。戦国武将中心の歴史美術館です。館内には安土城天守閣のモデルが作られており、往時の姿を偲ぶことができます。1時間ほど鑑賞して、J R 町田駅付近に戻りましたが、全部で3時間20分（7300歩）でした。

（西本 敬）

## 町田駅発・美術館めぐり



① 町田市立国際版画美術館



② 芹が谷公園



③ シバヒロ



⑤ 美術館内に設置された  
安土城天守閣



④ 泰巖歴史美術館外観

## あなたもハンディキャップボランティア号に 乗ってみませんか

～協会PRのページ～

協会では運転や介助のボランティアをやっていただける方を募集しています。また、ボランティアをやってみようという方のために1日体験の機会をもうけています。地域社会へのデビューのチャンスです。どうぞチャレンジしてみてください。



車の運転ならま  
かしといて下さ  
いよ！

ご自分の車で活動に参加できる方式（セダン方式）も採用しています。この機会にどうぞご参加ください。

## ご存知ですか？「傾聴ボランティア」

元気だった頃は、友達に会い、会合にも出ていたけど、最近はほとんど人に会うことがなくなりました。そのような方がお近くにいませんか？ 傾聴ボランティアがお役に立つかも知れません。お話ししたいことを聴いてくれるボランティアです。お宅に2名で訪問して、1時間、ゆったりとした楽しい時間をともにします。

### 連絡先

〒252-0236 相模原市中央区富士見 6-1-20

市立あじさい会館2階中央ボランティアセンター内

電話／FAX 042(759)7982（相模原ボランティア協会）

## ボランティア情報誌「わくわく」一時休刊にあたって

情報誌「わくわく」は、２００８年（平成２０年）にボランティアのための、ボランティアによる、総合季刊雑誌（春夏秋冬号）として、対象はボランティア活動をしている人、これから活動したい人など広い範囲の人に楽しく読め、役に立ち、そして永く読んで頂けるように考え発行しました。皆さんにご好評頂けたものとしては地域や同種のボランティアグループなどの座談会、福祉施設の情報、人物シリーズ、ハイキングなどの記事はご好評を頂いたものと感じています。この「わくわく」は、スタッフ５、６人で毎号を企画し座談会や取材をして手作りで製版製本し発行して５０号を重ねてきました。しかしスタッフの高齢化によりこれ以上発行するのは難しいと判断し、５０号をもって一時休刊する事としました。

相模原ボランティア協会としては、福祉にかかわる情報発信は重要な役目であると信じています。将来、体制を立てなおして新しい形で福祉にかかわる情報の発信を考えていく予定です。その点ご理解の上ご了承の程、よろしくお願いいたします。長い間ご愛読ありがとうございました。

相模原ボランティア協会  
会長 高橋 功

## 編集後記

☆2008年以来的の歴史もこの号でお休みとなります。読んでいただいてありがとうございます。ございました。コロナよ早く懐かしい過去の時代になってくれ！  
(西)

☆わくわくに携われて楽しかったです、皆様ありがとうございます。  
n。(髭)

☆「わくわく」一ノ号から関わり、「人物シリーズ」を担当してきました。約五十人の方々と出会いました。お会いした場所も喫茶店、その他いろいろでした。掲載した記事を読み返してみますと、それぞれのお人柄がわかり、私にとっても良い思い出になりました。ありがとうございます。益々のご活躍を期待します。どうぞお元気で  
(和)

☆十年ほど前から緑内障を患い、見えにくい中での編集作業でした。編集スタッフの皆さんに我儘を言い、今号で辞退を申し出たところ、今号での閉刊となり、皆様に感謝です。今までどうもありがとうございました。  
(倉)

さがみはら ぼらんていあ情報誌 季刊

わくわく 2021 春号 (第50号)

2021 年 5 月 20 日発行

編集人 小倉 義男  
西本 敬  
髭野 克己  
山本 和子  
高橋 功  
勝部 幸三

イラスト 鹿野 徹子

編集・発行・印刷；

特定非営利活動法人 相模原ボランティア協会  
広報委員会内 わくわく 編集部会

本誌に使用している用紙（表紙を除く）はイオングループから提供されたものです。

### 表紙の絵

障害者地域活動支援センター「ウッディショップきこり」の佐藤秀規さんの作品です。この厳しい状況の中、明るい色彩にほっとします。この小冊子の表紙にずっと絵画を提供いただきありがとうございました「きこり」は木工作業を中心に木のハガキ（動物や花）を制作しています。



さがみはら ぼらんていあ情報誌 **わくわく** 2021年春号（第50号 5月20日発行）  
発行：特定非営利活動法人 相模原ボランティア協会 広報委員会わくわく部会  
〒252-0236 相模原市中央区富士見6-1-20 あじさい会館中央ボランティアセンター内  
☎042-759-7982 URL <http://sagamivainfo/> e-mail: [sagamiva@feel.ocn.ne.jp](mailto:sagamiva@feel.ocn.ne.jp)